

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成27年8月)

～中国経済の減速懸念から、先行きDIが大幅に低下～

- 景気ウォッチャー調査・8月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月連続で低下したほか、先行き判断も大きく低下した。
- 足元の状況については、インバウンド関連の好調が続いているほか、月前半の猛暑の影響で季節商品の売行きが伸びた一方、益明け以降の消費の急減や、株価の低下によるマインド面への悪影響などにより、現状判断DIの低下につながっている。
- プレミアム付商品券の販売効果については、利用が徐々に進んでいる中で、売上の増加などにつながったと声がある一方、期待外れに終わったとの声も聞かれるなど、判断が大きく分かれている。近畿に限っていえば、効果は限定的とする声が半分以上となっている。
- 一方、先行きは、中国経済の減速に対する懸念の声が幅広い業界から上がっており、DIの大幅な低下につながっている。輸出面への影響について製造業から懸念の声が上がっているほか、株価の低下やインバウンドの減少にもつながる懸念から、百貨店、ホテルなどからも多くの声が聞かれる。
- また、インバウンドについては、昨年10月の免税商品の拡大から今年の9月で1年が経過するため、これまでのインバウンド消費の増勢が鈍化するとの声も多く聞かれる。

①「プレミアム付商品券」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	スーパー(店長)	・市内だけで使用できるプレミアム付商品券であるため、市外の大型ショッピングセンターに行かなくなっている。
		スーパー(店長)	・夏のギフトやお盆商戦などの商品単価が上がっている。また、プレミアム付商品券の利用が多く、1人当たりの購入単価も上がるなど、良い傾向がみられる。
		スーパー(店長)	・7月末に発行された大阪市のプレミアム付商品券の効果が大きい。特に、家電などの高額品が売れているほか、食品も単価が上がってきている。
	変わらない	百貨店(商品担当)	・プレミアム付商品券による需要喚起が期待されたが、消費の底上げ効果は限定的である。一方、特選洋品や婦人雑貨は好調であるが、インバウンド効果は少し頭打ち気味である。
		スーパー(店長)	・期待されたプレミアム付商品券の利用は、当初こそ高額商材に流れたものの、週を追うごとに食品へと流れ、70%以上が通常の買物に使用されているのが現状である。円安の影響による値上げに加え、野菜の高騰などもあり、景気が上向いているとは言い難い。
		スーパー(経理担当)	・各自自治体でプレミアム付商品券が発行され、使用される機会も増えているため、若干のプラスの影響が出ている。ただし、気温の変化が激しく、天候も不順なため、売上は一進一退の状況である。
	やや悪くなっている	百貨店(営業企画)	・入店客数はほぼ前年並みを維持しているが、レジ客数が減少傾向である。プレミアム付商品券の利用は食品が中心であるなど、顧客の生活防衛意識はやはり高いと感じられる。
		衣料品専門店(経営者)	・神戸市ではプレミアム付商品券の発売が始まったが、当社の客はほとんど手に入ることができなかった。商店街では対策を講じているが、売上へのプラス効果は限定的である。
		家電量販店(企画担当)	・今夏の酷暑によって、エアコン需要が一気に高まり、季節商品の売上アップにつながった。また、プレミアム付商品券の利用も多く、景気回復につながったと感じる。ただし、その反動のほか、お盆を過ぎてから夜が涼しくなり、急に秋めいてきたこともあり、来客数が激減し始めている。
		観光型旅館(経営者)	・2、3か月前に比べると、学生が夏休みに入っているため売上全体は伸びている。ただし、県内や村内で販売された、プレミアム付商品券の効果が出てくると期待したものの、利用者が前年比で10%ほど減少している。

②「中国経済の減速懸念」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	やや良くなる	都市型ホテル (スタッフ)	・世界的な株安や、中国経済の停滞などの報道が目立つが、今のところはインバウンドの予約状況に影響はない。その反対に、紅葉シーズンに向けて更に増加するとみている。一方、宴会の先行予約は、前年を何とか上回っている状況である。	
		都市型ホテル (客室担当)	・客室については、2～3か月先の予約が順調に入っており、単価も高水準で推移している。中国を含む株価の動向は気になるが、今のところ影響は出ていない。	
		百貨店 (営業担当)	・中国経済の減速や株価の低迷など、今後も不透明な状況であり、今までのようなインバウンドによる高額品の購入はあまり期待できない。一方、国内の富裕層による高級ブランド品などの購入は、資産価値が見込まれる高額品にシフトしており、この傾向はまだしばらく続く。	
	変わらない	百貨店 (売場マネージャー)	・消費税増税から1年が経過してからは、前年の実績を上回る状況が続いているが、中国経済の悪化や株安によって、高級商材の売行きに影響が出る可能性があるため、先行きを懸念している。	
			・インバウンドの増加が一巡しつつあり、今後も大きく外国人売上が伸びる見通しは立てにくい。中国の情勢が株価を大きく左右する可能性があるほか、消費者による買い控えが続くと思われるため、特にボリューム層の動きは厳しい状態が続くと予想している。一方、プレミアム付商品券による購入は1週間で約5千万円となったが、どれだけのプラス効果が出たのか、現状では読みにくい状況である。	
		百貨店 (マネージャー)	・爆発的に売れたプレミアム付商品券の利用については、食品ギフトの解体セールといった、消耗品や実需商品を手堅く買う姿勢がみられる。今後、国内ではシルバーウィークでの動きに期待しているほか、減速気味の中国景気の動向も、今後を占う意味で注目する必要がある。	
		百貨店 (商品担当)	・内需が安定しない中で、中国経済が不安定な状況となり、年後半は一層見通しが立たない。国会での安保関連法案の審議で支持率が低下し、政権が不安定となるのも不安材料である。	
		乗用車販売店 (経営者)	・中国の景気減速による世界経済への影響、特に株式市場の動揺はまだまだ収束しそうにない。今年の10月ぐらいまでは、景気は良くならない。	
		一般レストラン (経理担当)	・今のところは悪くなる要因が見当たらない。中国の景気不安による影響も、現時点ではみられない。	
		観光型ホテル (経営者)	・中国経済の減速や株安への懸念もあるが、今のところマイナスの影響はみられない。一方、9～10月からは国の緊急経済対策で、温泉地のお土産券などが地元自治体で販売されるため、景気が悪化することはない。	
		旅行代理店 (営業担当)	・海外旅行については、中国の経済不安を含む、海外情勢の不安要素がネックとなる。	
		通信会社 (企画担当)	・景気回復は続いているが、中国経済の失速による景気の悪化が懸念される。	
		やや悪くなる	百貨店 (売場主任)	・国内の需要に期待できる要素が見当たらない。これまで株価の上昇や賞与の増加に期待してきたが、結果は良いとはいえない。今月は株価が不安定になってきたほか、中国経済の先行き不透明感により、これまで消費をけん引してきたインバウンド需要も不安定になっているため、今以上に良くなるとは思えない。
				・現在は好調のインバウンドであるが、中国の株価暴落による影響が懸念される。
			百貨店 (企画担当)	・中国の経済不安や株価下落による影響は、外国人客や外商顧客向けの売上に現時点では出ていないものの、今後の動向次第では大きくなる可能性もある。また、店舗の大きな改装を控えており、売場の閉鎖による売上の減少が見込まれる。
	百貨店 (外商担当)		・中国の株価下落により、景気の先行きが不透明になっている。特に、富裕層にとっては、株価の下落が消費の減少に直結する。	
	百貨店 (営業企画)		・景気回復の基調が弱いなかで、ギリシャや中国の動向が日本の実体経済にも影響を及ぼし、消費マインドを低下させる恐れがある。	
	百貨店 (マネージャー)		・中国から始まった世界同時株安により、富裕層のマインドが低下するほか、円高局面が進む。今後の日本経済の見通しについては不透明である。	
	スーパー (店長)		・中国発の世界同時株安が、消費にも悪影響を及ぼす。	
	スーパー (店長)		・中国問題で為替や株価が不安定な状況になってきており、しばらくは顧客心理に少なからずブレーキがかかる可能性が高い。	
	スーパー (開発担当)		・中国経済の悪化や株価の暴落で、ますます経済は冷え込む。国内の消費も現状は動いていない。	
	乗用車販売店 (経営者)		・中国経済の悪化による影響を、輸出産業がどれぐらい受けるかで変わってくるが、世界同時株安の影響については不透明である。	
	高級レストラン (企画)		・中国からのインバウンド需要が減少してくる。	
	都市型ホテル (支配人)		・世界的な株安傾向が進むなか、中国の株安が発端となって円高が進めば、インバウンド効果も長らくは続かない。	
	都市型ホテル (総務担当)		・中国の通貨切り下げや世界的な株価の下落、円高の進行により、海外客の減少が懸念される。	
	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕 (企画担当)		・中国の経済状況の不透明さが、徐々に国内景気にも影響を与えようである。関西圏には明るい材料があまりみられない。	
	住宅販売会社 (従業員)		・中国経済の悪化による影響が出てくる。	
	悪くなる	一般小売店〔貴金属製品〕 (従業員)	・中国の景気悪化の影響が出てくる。	
		スーパー (店長)	・中国経済の低迷による株価の下落で、不況感が出てくる。食材の値上げによる節約志向や、買い控えの動きも強まっている。	
	企業動向関連	くやなる良	その他非製造業〔商社〕 (営業担当)	・中国経済が安定に向かうと思われる。それに伴い、年末商戦に向けて少しは良くなる。
変わらない			化学工業 (経営者)	・中国経済の先行き不安による世界的な株安や円高の影響が、今後出てくる可能性はある。ただし、それを除けば順調であり、問い合わせの動きも続いている。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・世界情勢が激変しており、中国の不況や米国の利上げ、原油相場の急低下などの不安要素も多い。株価も不安定な状態であり、企業としては対策が立てにくい。	
		金融業 (営業担当)	・中国の株価動向に大きく左右され、景気が鈍化するかもしれない。	
		金融業〔投資運用業〕 (代表)	・中国の景気後退に伴う世界同時株安で、一時的に危機感が高まっているが、日本の大企業の業績は好調が続くと予想される。景気に大きな影響が出るような材料は見当たらない。	
経営コンサルタント		・特に良い材料がなく、中国の通貨切り下げなどの不安要素が多い。		
くやなる悪	化学工業 (管理担当)	・中国経済の減速による世界同時株安や円高の影響で、輸出量が減る。		
雇用関連	変わらない	人材派遣会社 (役員)	・中国ショックで、中国に関わりのある企業のほか、インバウンドも悪化することが懸念される。	
		民間職業紹介機関 (営業担当)	・中国の景気動向は気になるが、採用市場にはその影響はほとんどみられない。	
	くやなる悪	新聞社〔求人広告〕 (管理担当)	・求人広告の動きは安定しているが、中国経済の減速懸念による世界的な株価の急落をみていると、2、3か月先には経済が悪化すると考えざるを得ない。このまま中国発の世界不況につながらないことを願っている。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 13			14								15													
		月 8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
現状判断	近畿	51.4	54.6	52.8	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4
	(全国)	51.2	52.8	51.8	53.5	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3
先行き判断	近畿	52.3	55.9	57.7	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3
	(全国)	51.2	54.2	54.5	54.8	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2